

駒ヶ根市文化財

名称	高名地の荒神像
種別	民俗・芸能
所在地	東伊那火山
説明	<p>火山の城高(じょうこう)会所近くに、数年前新築した堂があり、祭壇に荒神様の石像2体が安置されている。堂の裏手には堀がめぐらされており古くは館(やかた)があったと聞く。その後、寺が建てられていた時代があったという。現在の堂に建て替える以前は、2間(363.6cm)四方の草葺の堂であったと古老は語る。古い時代には、高名地を高名寺と書いていたのかも知れない。</p> <p>昔の農家では、どの家にも火を焚くいろりがあって、その隅にはかまどが置かれていた。毎日火を使ういろり・かまどの神様が荒神様である。これを屋外に祀ると、屋敷や同族の神となるという。</p> <p>現在、この荒神様をお祀りしているのは、近くの佐藤氏一族7軒であるという。4月8日が祭日で、女衆が集って団子などを供え、念仏を唱えてお祭りをしているという。</p> <p>石像はいずれも光背型に陽刻された像で、蓮弁台座の上に置かれた座像である。右の像は、台座上の総長 35.0cm、左右と裏面に「寛永二十一年 甲申六月吉日 佐藤一門」と刻字がある。左の像は同じく総長 38.0cm、刻字も同様である。像を少し細かに観察すると、右の像の右手に持っているのは、経巻の如きものであるが、左手にあるのは薬壺であろうか、薬師如来の姿を示している。そういえば、この地の古老の話で、目を病むとこの堂にお参りして願をかけたといっている。左の像は、三面像で左手は膝の上に置き、右手は剣を握っている。始めから剣であったかどうか、仏・法・僧の三宝を守る三宝荒神であるとすれば、右手には蓮華などの例が多い。あるいは、当初はその様な姿であったのかも知れない。珍しい石像である。</p>



高名地の荒神像



左の像 側面



右の像 側面